第一回　上野松颯会定期能楽会

令和五年四月十五日（土）　午後一時始

仕舞

難波　伊原　昇
東北（クセ）　赤井きよ子
梅枝（キリ）　前田飛南子
小鍛冶（キリ）　西野　翠舟

地謡

上野　朝彦
上野　雄三
上野　朝義
渡邉　瑞子

巴

能

上野　雄介

喜多　雅人

間　小西　玲央

後見　田口　亮二
野村　昌司

地謡

西野　翠舟
伊原　昇
渡邉　瑞子

山本　哲也
荒木　建作

前田飛南子
上野　雄三
赤松　禎友

貞光　義明

空腕

狂言

善竹　隆司

上西　良介

後見　上吉川　徹

山姥

能

上野　朝彦
上野　朝義

白頭　廣谷　和夫
福王　知登
中村　宜成

間　善竹　隆平

後見　前田飛南子
野村　昌司

地謡

伊原　昇
上野　雄介
赤井きよ子

上野　義雄
成田　達志

上田　慎也
赤井　啓三

田口　亮二
赤松　禎友
上野　雄三

附祝言

『巴（ともえ）』

木曽出身の僧たち（ワキ・ワキツレ）が粟津ヶ原を訪れると、松蔭に祀られた神の前で涙を流す一人の女（前シテ）がいた。僧が声をかけると、女は、ここに祀られているのは木曽義仲であると教え、自分はある人物の幽霊であると明かして消え失せる。僧が弔っていると、先ほどの女が鎧兜を身にまとった姿で現れた。女は、義仲に仕えた女武者・巴御前の幽霊（後シテ）であった。巴は、運尽きた義仲が自害するに至った経緯を語り、自身が女であるが故に、義仲に最期の供を許されなかった自らの執心を述べ、義仲への最後の奉公として戦った粟津ヶ原での合戦の様子を再現して見せるのだった。

『山姥（やまんば）』白頭

山姥の山廻りを曲舞に作って謡うのを得意とし「百万山姥」と呼ばれている遊女（ツレ）が、善光寺参詣のため、都の人（ワキ・ワキツレ）を伴い上路越え（あげろごえ）の道を行く途中、急に日が暮れ途方に暮れていると、一人の女（前シテ）が現れて宿を貸そうと自分の庵へと案内する。女は山姥の歌を聞かせてほしいと頼み、自分こそが真の山姥であると明かし消え失せる。夜が更けて遊女達一行が待ち受けていると、恐ろしげな姿の山姥（後シテ）が現れ、深山の光景、山姥の境涯を語り舞い、山廻りの様を見せて消えて行く。今回、小書「白頭」によって、より重厚感が増す演出となる。

◆次回予告

【第二回上野松颯会定期能楽会】

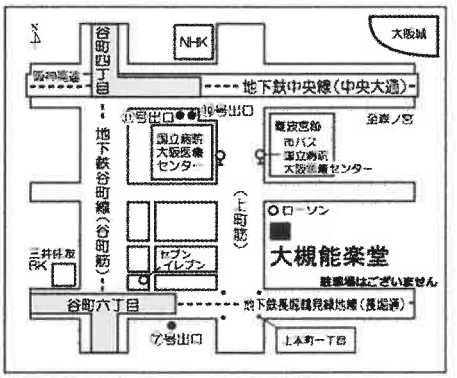
七月二十二日（土）午後一時始

能　**頼政**　上野　雄三

狂言　**蟹山伏**　茂山忠三郎

能　**杜若**　上野　朝彦

他　仕舞



駐車場はございません。公共交通機関をご利用下さい

○地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」下車、⑩番出口を出て南へ約300mまたは谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」下車⑦番出口を出て北に約360m

○市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ

※大阪駅前から62系統「住吉車庫前」行き乗車

※本公演における許可のない写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録画は固くお断り致します

上野松颯会定期能楽会では、新型コロナ感染拡大防止対策を行っております。ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

・ご来場の際はマスク着用、手指消毒、検温、咳エチケットにご協力ください。

・発熱や咳など、風邪の症状がみられる場合はご来場をお控え頂きますようお願い致します。

・又感染拡大状況により、中止または日程変更となる場合は、ホームページ等でお知らせ致します。